

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームひまわり)

事業所番号	O670700608		
法人名	株式会社ひまわり		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	山形県鶴岡市稲生一丁目3-5		
自己評価作成日	平成 25年 10月 21日	開設年月日	平成 18年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所していても、また認知症という病気を抱えていても、メリハリのある1日を過ごしていただきたいという思いから、余暇活動に力を入れている。日々の室内で行う活動は勿論であるが、外出行事にも力を入れている。認知症だから〇〇〇に行くのは無理だろうな…と思わず、どうしたら利用者の望む場所に出かけ感動をプレゼントできるかを考え、実現に向けて努力している。またお一人おひとりの思い出のある場所への個別外出にも、できるだけ対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鶴岡市内に位置する本事業所は洋館をイメージしたような建物が特徴的であり、内装や調度品、装飾品等も意識され、華やかな印象がもたれる。人材育成に努力し、「介護検定」や人間学を学ぶ「木鶏の会」等法人独特の様々な取り組みが行われている。外出行事を多く取り入れ遊佐、羽黒、温海等遠方への外出も行われ普段は行けない様な場所へのサービスも取り組まれている。また、利用者の生活の継続を支える為、様々な役割を利用者にお願ひし、一人ひとりの生活観を大切に支援を行っている。職員は事業所の理念に掲げるとおり、利用者一人ひとりの気持を大切に、一人ひとりに合ったケアを心がけ、利用者も職員も笑顔が絶えない生活になるよう努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成25年 11月 13日	評価結果決定日	平成25年 12月 3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の介護理念を作成し、職員間で理念を共有して実践に取り組んでいる。	法人の介護理念を基にグループホーム独自の理念を作成し玄関入り口に掲示すると共にスタッフ間で確認し共有を図っている。理念の実践状況の確認として事業所独自の自己評価シートを活用し職員それぞれが普段のケアについて振り返りをしている。職員は利用者が生き活きと生活出来るよう寄添って暖かく見守り笑顔での接遇を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々との交流や町内の方が月に1~2回訪問時に交流している。	地域の情報を収集すると共に定期的に「ひまわり通信」を近隣の住民に配布することにより事業所の取り組み等情報の提供を行っている。地域行事に参加すると共に、地域の清掃等地域貢献にも積極的に取り組んでいる。唄、踊り等様々な地域ボランティアの受入実績が見られた。職員も地域行事や外出の際には住民との挨拶や声かけを行い交流の拡大に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域訪問や研修会への参加、情報交換及び情報提供を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生児童委員・介護相談員・ご家族代表を含む10名で運営推進会議を開催し、意見や情報を交換してサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況や取り組みを説明し理解を頂いている。地域との交流を大切にし地域の中で手伝えることが無いか問いかけると共に、委員から外出に関する意見等を頂き双方向的な会議の内容となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の連絡協議会への参加。 市の担当者との運営推進会議での情報交換。	市の連絡協議会や運営推進会議を通じて事業所の取り組みや情報交換を行うと共に相談員制度の導入により多くのアドバイスを戴き協力関係の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての勉強会実施及びマニュアルの読み合わせにより理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠。日中は解放している。</p>	<p>マニュアルの回覧や学習会を通じて身体拘束についての周知を図っている。職員も身体拘束の具体的な行為やその弊害を理解している。普段から行動障害など原因や対応をスタッフ間で話し合い、寄添いながら見守りを強化し危険に繋がる行為を未然に防止し、鍵をかけない工夫や身体拘束はしないという工夫を行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会及びマニュアルの読み合わせにより虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護(生年後見制度)のマニュアルの回覧やマニュアルの読み合わせにより職員間での理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時に十分な説明を行い本人及びご家族に理解納得していただけるように努めている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族へのアンケートを実施し、意見要望に対応。家族会での交流や運営推進会議での意見や情報などを運営に反映できるよう努めている。</p>	<p>定期的に法人全体での家族会を行い積極的な意見交換を行うと共に、今年度も家族アンケートを計画している。また、相談員を活用し利用者からの意見等の把握など、意見を表す機会の確保に努めている。出された意見、要望については職員会議等で話し合いサービス向上に努めている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所会議やリーダー会議での意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表記入及び個人面談により対応。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会及び勉強会に開催。外部研修への参加。希望する研修への参加を支援。	管理者等は職員一人ひとりの自己評価によりケアの実際や力量の把握を行っている。人材育成の為に研修の年間計画を作り内、外部の研修や職責毎の研修を行い学ぶ機会を確保している。特に社内木鶏勉強会に於いて人間学を学ぶ等法人独特の取り組みが見られた。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加を通じて情報交換などの交流を実施。グループホーム交換実習の実施。	グループホーム連絡協議会を通じて交換実習の派遣や受け入れを積極的に導入し、他事業所からの学びや自らの振り返りを行い再認識してサービスの向上の重要な位置付けとして取り組んでいる。鶴岡市の連絡協議会での市内事業所の情報交換等も行われている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査の実施。入居後もアセスメントなどにより理解を深め、コミュニケーションを取り信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査の実施。入居後も本人及び家族の要望に耳を傾けながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望を考慮しながら必要なサービスが利用できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を人生の先輩として尊重し学びながら生活を共にする関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の声に耳を傾けながら本人の声も尊重して家族との連携を密にして共に本人を支えていくよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会。 馴染みの方への訪問や外出時の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動及び季節行事を通して利用者同士の関わりを持つ機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて退去後も家族からの相談や訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やアセスメントなどにより、本人の意向の把握に努め、困難な場合は本人を尊重しながら家族の考えを交えて検討している。	利用開始時や利用後のアセスメントを基に普段の生活から可能な限りくみ取り生活感が出るように担当者会議や面会時の家族意向を重視し思いや本人意向の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後のアセスメントや申し送りなどで把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護録や申し送りなどにより職員間で情報を共有して現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族また本人及び関係者の意見に耳を傾けながら、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングを基に6ヶ月毎のアセスメントや担当者会議によりプランの見直しを定期的に行っている。カンファレンスにより見直しを行う際は職員や家族の意見を踏まえ現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入により、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方の訪問や町内散歩時の挨拶や声かえなどの支援。 ボランティア団体との交流。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医・その他の医療機関は、本人及び家族により自由に選択していただいている。また必要に応じて情報提供などを行い、安心して生活できるように支援している。	主治医、その他医療機関は自由に選択して戴いている。受診の際は事業所でのサポートもあり情報提出の文書を用いて情報を共有し安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の有料老人ホームの看護職員と連携し、相談や問題解決ができるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者や医療機関者との情報交換及び提供などにより関係作りに努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族との話し合いで意向を確認。随時、本人や家族・主治医と話し合い、対応できるように支援している。</p>	<p>利用開始時、本人、家族との話し合いの中で重度化した場合の方針を確認し共有を図ると共に、状況の変化に応じて繰り返し話し合い段階的な合意を図っている。家族の希望に従い看取りを行なった数例の実績もある。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの回覧。 心肺蘇生法やAED操作方法などを社内研修で行い、事故発生時に備えている。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練の実施 避難場所及び避難方法の確認を周知している。</p>	<p>法人全体で年2回定期的に消防署立会の基総合防災避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も計画し、また有事の際に備え非常食の備蓄などの見直しを行い、更に地域参加型の防災体制を築いている。地域の避難場所にもなっており今後協力関係の更なる強化が期待される。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>勉強会及びマニュアルの回覧により、理解を深めている。 人生の先輩であるという尊敬の気持ちを忘れず、相手を尊重しながら優しい言葉かけで接している。</p>	<p>利用者を人生の先輩として尊重し共に学びながら生活を共にする関係を大切にしていく。接遇委員会を中心に勉強会やマニュアルの徹底を図りプライバシーの確保や不適切な対応の無いよう努めている。法人独自の取り組みとして「介護検定」を実施し誇りやプライバシーを損ねないケアの実践に繋げている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身及び他者との関係が悪化しない事柄については、できるだけ自己決定ができるよう複数の選択肢を提供できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのこれまでの暮らしを尊重しながら、生活習慣やペースを考慮し支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望も含め、その人らしい身だしなみができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事形態を考慮し、準備や片付けを職員と一緒にやっている。	栄養士監修の基、法人の食事委員会が嗜好調査を行い食事形態を考慮しながら献立を作っている。利用者にもおやつ作りや食事の準備、片付けに関して頂き生活観のある食事になるよう努力している。行事食や、外食、バイキングなどを企画し食事が楽しみになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、食事量や食事形態を提供している。 食事・補水などをチェック表に記入して管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人の能力に応じたケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握、時間や様子を見ながらのトイレ誘導や声かけを実施している。	ひとり一人の排泄パターンの把握や習慣を活かしタイミング、時間を見ながら自力排泄を促す支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や補水量のチェックと管理を行っている。毎日行っている健康体操への参加や散歩などの運動を推奨している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を考慮しながら、定期的及び随時対応している。	希望や体調を最優先させ対応している。身体状況に応じ2人体制での介助や入浴拒否者に対してはこまめな声掛け等工夫をし清潔の確保に努めている。入浴剤を活用し入浴を楽染むことが出来るよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に合わせて休息や睡眠を支援している。起床や就寝時間においても、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書を近くに置き、使用目的や薬効を把握している。職員により薬管理と服薬にチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や趣味を大事にしながら、得意分野を活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事の外出や日常の散歩などの外出は、本人の希望や家族の意向を尊重しながら支援している。	行事として櫛引、羽黒、遊佐等多様な地域への外出、買物の日、気分転換としての散歩、畑仕事、デッキでの外気浴等戸外に出かける機会を確保している。家族の協力を得ながら個別の外出支援も積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物でのお金のやり取りの援助・支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に対応している。代理で電話をかける援助や支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節による環境の変化に伴い、空調の調整や館内の整備に努めている。 好みの音楽を流し、居心地よく過ごせるように努めている。	季節に応じた飾付けや外出時の思い出や行事の写真を見える所に掲示し、空調の管理をまめに行い、好みの音楽を流すなど心地よい空間を作っている。また普段から清掃を心掛けると共に、毎月手拭の日を設け職員と利用者で清掃を行い清潔な共用空間なるよう努めている。調度品や装飾品にも気を使い居心地良い空間になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置・ご利用者同士の相性なども考慮しながら居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や私物を居室に配置することで、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	本人が居心地よく過ごせるよう使い慣れた家具の持ち込みや、好みの飾りつけなど思い思いの空間になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や床のバリアフリー・オープンなリビング・家具の配置などで、建物内部はできるだけ安全に、かつ自由に移動できるような環境作りに努めている。		